

在外日本古美術品保存修復協力事業 (②修04-10-5/5)

目 的

海外の美術館、博物館が所蔵する評価の高い作品の修復に協力し、併せて対象作品を所蔵している博物館等と共同で、保存修復に関連する研究を行う事業である。平成3年度から絵画を対象に事業を進めてきたが、平成9年度から工芸品など欧米の修復技術で修復の困難な分野にも協力対象を拡げた。

本事業では立案のために、欧米の美術館、博物館にて作品調査のほかに修復技術に関する討議を行い、併せて輸送手続きに関する協議を行っている。また、修復内容の検討、修復作品の写真記録の作成および整理・保存、輸送手続きに責任を持って当たっている。

この修復協力事業が契機となって、国内外で所蔵の日本古美術品に対する関心が新たに高まりつつあり、日本古美術品を所蔵する博物館の間でネットワークが構築されつつある。さらに、文化財保存の専門家の交流も促進され、わが国の文化財修復技術の普及と理解に対し効果をあげている。

成 果

平成22年度は、9館10点の作品(絵画4点、工芸品6点)を修復した。(うち4点(絵画2点、工芸品2点)が21年度からの継続、3点(絵画1点、工芸品2点)が海外での修復(◆印))。

〈絵画〉

(1) 「伯牙弹琴図屏風」	2 曲 1 隻	ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館
(2) 「源平合戦図屏風」(裏面 竹に雀図)	6 曲 1 双	ベルン歴史博物館(2年計画の2年目)
(3) 「四季花鳥図屏風」(狩野松栄筆)	6 曲 1 双	ブルックリン美術館(2年計画の2年目)
(4) ◆ 「山水図」(曾我二直庵筆)	1 幅	ベルリン国立アジア美術館

〈工芸品〉

(1) 「菱繫文螺鈿筆筒」	1 基	国立ナールステク博物館(2年計画の2年目)
(2) 「花樹鳥蒔絵螺鈿筆筒」	1 基	アシュモリアン美術館(2年計画の2年目)
(3) 「螺鈿鶴形合子」	1 基	アムステルダム国立博物館
(4) 「花鳥螺鈿枕」	1 基	ライデン国立民族学博物館
(5) ◆ 「瀧蒔絵鼓箱」	1 合	ケルン東洋美術館
(6) ◆ 「折枝散蒔絵喇叭」	1 本	ライデン国立民族学博物館

平成22年度、絵画の事前調査はケルン東洋美術館で1館22点の調査を行った。加えて、欧米の各美術館、博物館に対して、修理が必要と思われる作品に関するアンケート調査を実施した。

また、平成21年度に修復した絵画、工芸品の修復状況をまとめて「在外日本古美術品保存修復協力事業」の報告書を刊行した。

報告書の刊行 1件

・『在外日本古美術品保存修復協力事業修理報告書 平成22年度(絵画/工芸品)』 163p 東京文化財研究所 11.3

研究組織

○川野邊渉、中山俊介、北野信彦、加藤雅人(以上、保存修復科学センター)、北出猛夫、高柳明、井手真二(以上、研究支援推進部)、中野照男(副所長)、津田徹英、勝木言一郎、塩谷純、綿田稔、江村知子、皿井舞、城野誠治(以上、企画情報部)、清水真一、岡田健(以上、文化遺産国際協力センター)